

各 位

令和2年10月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



紅葉が進む野草園《ニシキギの紅葉》

ニシキギ（ニシキギ科）の紅葉

山野の林縁に生える高さ1～3mの落葉低木で、枝に薄板状のコルク質の翼が矢羽根のように張り出すのが特徴です。美しい紅葉を錦に例えたことが、名前の由来です。紅葉がきれいなので生け垣などに使われることも多いようです。

秋色に染まった蔵王の山々が青空に映え、すっかり秋の装いとなりました。

10月中旬になり、標高500m以上のところにある野草園ではぐっと気温が低くなり、暖房が必要なほどの気温になってきています。最低気温が10℃を切るようになり、園内では様々な樹木の紅葉が進んでいます。

紅葉が特に美しいニシキギも、真っ赤に色づいてきました。モミジやカエデの葉も日に日に色を変化させ、美しい色に変わりつつあります。花が咲いたような、不思議な形のクサギの実も私たちの目を楽しませてくれます。

さあ、秋を見つけに野草園に出かけてみましょう。

10月～11月の予定

◆ 野草園を会場にした初めての結婚式が挙行されます

○日 時 10/17(土) 13:00～15:00 ※10/10(土) 台風接近のため延期

○場 所 野草の丘

※一般入園者の結婚式ですが取材可能です(新郎新婦承諾済)

◆【第27回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展】

○日 時 10/17(土)～11/23(月) 9:00～16:30

○場 所 自然学習センター

○費 用 入園料 300 円のみ(高校生以下無料)

●●● 10月後半から 11 月初めに見られる花と樹木の果実と紅葉●●●



ミヤマダイモンジソウ(ユキノシタ科)

湿気に富む岩地に生える多年生草本です。葉は長い柄があり腎円形で、基部は心形です。掌状に浅く7裂し裂片には粗い鋸歯があります。白色の花を開き花弁は5個、上の3個は小さく下の2個は長く、全体として「大」の字に似ています。本園では、ロックガーデンに咲いています。



リンドウ(リンドウ科)

山野に生える多年草で、葉は対生し無柄で茎を抱きます。茎頂に数個の青紫色の5裂した鐘形の花を開きます。エゾリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。リンドウの根を乾燥したものは薬用にされ、漢方ではこれを竜胆(りゅうたん)と呼んでいます。そのことからリンドウに竜胆の字を当てています。



エゾリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の湿地などに生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生で、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で5裂します。この種をもとに、切り花用にさまざまな園芸品種がつくられています。高山型で主として茎頂のみに花をつけるものをエゾオヤマリンドウといいます。



台湾ホトトギス(ユリ科)

沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30～50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されています。本種は台湾ホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



シュウメイギク(キンポウゲ科)

人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品種で中国では秋牡丹と言われていたようです。美しいので、よく庭などに植えられています。花は多数の花弁状の萼片からなり花弁はありません。秋に菊によく似た花をつけることが名の由来ですが、菊ではなくアネモネの仲間です。



ヤナギバヒマワリ(キク科)

別名はゴールデンピラミッド、北アメリカのネブラスカからテキサス州にいたる地域に分布しています。茎は直立して無毛、多数の細い葉を互生します。花は、たくさんの黄色の舌状花と茶色の筒状花からなっています。名は、花がヒマワリに似て葉が柳の葉のように見えることに由来します。



キバナコスモス(キク科)

メキシコ原産の1年草で、大正時代に渡来しました。草丈はコスモスより低めで、花はコスモスより早い時期から咲き始めます。花色は橙色や黄色などで八重咲きです。黄色の花を咲かせるコスモスなので、「黄花コスモス」と呼ばれています。



ノコンギク(キク科)

山野のいたるところに普通に見られる多年草で、地下茎を伸ばしてふえます。茎には短毛が密生し、葉も両面に短毛が生えざらつきます。花は中心に黄色の筒状花が多数あり、まわりに淡青紫色の舌状花が1列に並びます。特に紫色の濃いものが選別されて、紺菊（コンギク）として観賞用に栽培されています。



クサギ(シソ科)の果実

日当たりの良い山野の林縁に生える落葉の小高木で、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はきれいな濃紅色になり深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をつけます。まるで花のような果実です。花も果実も綺麗なのですが、名は「臭木（クサギ）」です。これは葉に臭気があるためつけられました。



ナナカマド（バラ科）の果実

モミジ類やウルシ類とならび真っ赤な紅葉が美しい木のひとつです。小さな葉が羽のように並んで1枚の葉を構成する羽状複葉で、鮮やかな赤色に染まります。赤い果実も葉が緑色の頃からつけ、葉が落ちてからも枝に残ります。果実は、冬に鳥の餌となります。山形市の木になっています。



カンボク（レンプクソウ科）の果実

主に北日本の山地に生える落葉低木です。葉は3つに裂け、初夏に、白いガクアジサイのような両生花と装飾花の花を咲かせます。秋には、真っ赤な果実を多数付けます。とてもおいしそうに見えますが、つぶしてみると強い臭気があります。そのためか鳥も食べず、葉が落ちた後も、春まで実が残っています。



ムラサキシキブ（シソ科）の果実

山野の林内や林縁に生える落葉低木です。葉は対生で、形は長楕円形、先が尾状にとがり基部は狭いくさび形です。夏に淡紅色の小さい花をたくさんつけます。花も美しいですが、果実もまた、紫色でとても美しく見えます。果実は、葉が落ちた後も枝に長く残っています。



サンシュユ（ミズキ科）の果実

中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。春、葉が開く前に淡黄色の小さな花をたくさんつけるので「春黄金花」と言われます。秋は果実が赤く熟すので「秋珊瑚」という別名もあります。果肉を乾燥したものを強壮、強精などの薬用に、果実を果実酒に利用します。



カツラ（カツラ科）の黄葉

カツラの木が黄葉し、周りには甘い匂いがします。下には黄色や茶色のハート形の落ち葉がたくさんあります。その落ちた黄色の葉が茶色になり始めると、砂糖をこがしたような香ばしい匂いを出します。



アブラツツジ（ツツジ科）の紅葉

山地に生えよく枝分かれする落葉低木です。葉は枝先に輪生状に集まってつき、倒卵形です。6月頃枝先に淡緑色の花を総状につり下げます。ドウダンツツジの仲間は鮮やかな赤色に紅葉します。そのひとつが本種です。



ヤマモミジ（ムクロジ科）の紅葉

北海道や日本海側に多い落葉小高木です。葉は対生で、掌状に深く5～9裂し、縁は重鋸歯になっています。園内でも最も多いカエデです。紅葉は葉が赤くなるもの、黄色くなるもの様々あり、変異の多い樹木です。



メグスリノキ（ムクロジ科）の紅葉

高さ10mにもなる落葉高木。樹皮を煎じて洗眼に用いたので、メグスリノキと呼ばれています。対生する葉は三出複葉で、小葉は5～10cmの長楕円形です。春、枝先に付く白色花はあまり目立ちませんが、秋は見事に紅葉します。よく見ると葉柄などに細かい毛が密生します。



アカシデ（カバノキ科）の黄葉

山地や平地に生える落葉高木です。雌雄同株。5月に開花しました。果穂は長い柄で垂れ下がり、ややまばらに苞がついています。苞は葉状で3裂し、小さい果実を包んでいます。シデ類の中では最も紅葉が鮮やかです。